

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER
 for the Promotion of Art and Science
 (JICPAS)

学校法人 城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

http://www.josai.jp/

Newsletter

Josai University Educational Corporation

3-26 Kiou-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.24

(2017.3.31 発行)



水田理事から賞状など受けたブライス夫妻



選考委員の方々との記念撮影



学生のインタビューに笑顔で答えるブライス夫妻

2017年2月7日、学校法人城西大学は東京紀尾井町キャンパス3号棟で、創立50周年を記念して創設した「水田三喜男記念国際賞」を、伊藤若冲ら江戸時代の日本絵画の再評価に大きな貢献を果たした財団「心遠館」館長、ジョー・ブライス氏に贈呈しました。創立者の水田三喜男（1905～1976）は戦後復興に力を注ぎ、経済成長の実現や日本の国際社会での地位向上などに努め

る一方、義務教育費の国庫負担や私学助成等に尽力し教育振興に情熱を傾けました。「学問による人間形成」を目標に1965年に設立されたのが、城西大学でした。水田三喜男記念国際賞は、こうした創立者の日本の復興・発展に尽くした事跡に思いを致すとともに、その精神を体して、著作あるいは実践行動において、日本経済・社会・文化の活性化・発展に顕著な貢献をしてきた方を顕彰す



日時…2017年2月7日
 場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学創立50周年記念 水田三喜男記念国際賞授賞式を
 東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催



国際交流活動

ることを目的に創設しました。

ジョー・ブライス氏は1929年、米オクラホマ州生まれ。87歳。オクラホマ大学工学部を卒業後、父親の会社で技師として勤務。1955年ごろから日本の絵画の収集を始めた。1963年に初来日、その後、妻となる悦子夫人と知り合い、夫人の助けも受けてコレクションを充実させました。1981年に財団「心遠館」を設立。1988年にはコレクションの一部がロサンゼルスのカウンティ美術館に寄託され「ジャパニーズ・パヴァリオン（日本美術館）」がつくられました。氏の収集は個人では最大の若冲コレクションであるとともに、世界有数の江戸絵画コレクションとなりました。長い間、研究者たちに見遇えられてきた江戸時代の個性的な画家たちを発掘しただけでなく、日本における様々な展覧会にコレクションから作品を積極的に貸し出すなど、近年の「若冲ブーム」のきっかけとなりました。

授賞式には、選考委員長の米倉弘昌・日本経済団体連合会名誉会長や選考委員の青柳正規・前文化庁長官、行天豊雄・元財務官、杉田亮毅・元日本経済新聞社社長の方々をはじめ、来賓の方々、本学の教職員ら約100人が出席。小野元之理事長代理が「プライス先生は、日本文化を世界に広めていただいた日本人にとっては恩人であります。第1回目の受賞者にプライス先生を選ぶことができたことを光栄に思います」と挨拶。選考委員を代表して水田宗子理事は「戦後の復興と国際社会で評価を高めるのが創立者の大きな目的だった。（併せて）文化を大切にする大学の趣旨から、今回の授賞は水田三喜男の気持ちと志を反映したもので、創立者も喜んでいてのではないかと思います」と述べました。その後、水田理事からプライス夫妻に賞状や賞金、記念品が贈られました。プライス氏はプレスとの会見で授賞について、「ナイス、ハッピー」と笑顔で応え、若冲絵画との出会いや収集に触れ「私は若冲とともに人生を歩んできました」と語りました。また、2013年に東日本大震災の復興支援として被災3県で開いた巡回展について、「ありがとう」などのメモを書いたり、涙

を流しながら作品を観るのが、若い人たちがあつたことが印象的でした。その前の都内の展覧会でも若者たちが床にどっかり座って作品を観て、涙を流していたんです。ついに若い人たちが江戸絵画を理解する時が来たんだと感動したのを覚えています」と述べました。

レセプションでは、日本における若冲ブームの立役者でプライス夫妻とも親交の深い辻惟雄・東京大学名誉教授と国際浮世絵学会会長の小林忠・岡田美術館館長がお祝いのスピーチ。悦子夫人は挨拶で半世紀前のプライス氏と辻氏の出会いをユーモラスに紹介するなどして「ジョー・プライスはコレクター、辻先生は学者、小林先生はその一番弟子。我々は、あることを成すための同志。一生、離れられない日本美術史における貴重なチーム」と述べ、大きな拍手を受けました。

この後、プライス夫妻には城西国際大学メディア学部によるインタビューにも笑顔で快く応じていただきました。悦子夫人は、被災3県での巡回展について「高校生まで無料だったので、毎日来てくれた野球少年たちなど、今まで美術館に来たことのない子どもたちが観覧者だった。それが一番うれしかった」と振り返りました。

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

学校法人城西大学創立50周年記念 水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

内閣総理大臣夫人、安倍昭恵氏を招いた

講演会を城西大学にて開催

日時：2016年10月26日
場所：城西大学坂戸キャンパス

水田三喜男記念
「グローバル・レクチャー」
シリーズ

2016年10月26日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、安倍晋三内閣総理大

臣夫人、安倍昭恵氏を招いた講演会「女性活躍社会に向けて」を城西大学坂戸キャンパス



講演する安倍氏

（埼玉県坂戸市）の清光ホールで開きました。山口泰明衆院議員や在ハンガリー日本大使館の小菅淳一大使から来賓の方々はじめ、ホールを埋めた地域の方々や教職員のほか、サテライト教室や東京紀尾井町キャンパス、城西国際大学（千葉県東金市）の東金キャンパスでも学生たちが熱心に耳を傾けました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。これまで、昨年5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハマド（Mahatir bin Mohamad）氏を皮切りに、6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル（Ezra F. Vogel）氏▽7月9日のノーベル物理学賞受賞者の小



ホールを埋めた人たちが聴き入りました

林誠氏▽7月10日のスタジオリブリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏▽10月1日の日本経済団体連合会名誉会長の米倉弘昌氏▽11月21日の国際浮世絵学会会長の小林忠氏▽12月4日の米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部長のエリザベス・M・デイリー（Elizabeth M. Daley）氏▽今年6月15日の前文化庁長官の青柳正規氏の講演会を開催しました。安倍氏は9人目の登壇となりました。安倍氏は、1962年東京生まれ。1987年に安倍晋三氏と結婚。2011年の東日本大震災後に山口県下関市で無農薬のコメ作りを手掛け、2012年には東京・神田にこだわりの食材を使った居酒屋「U2U（うず）」を開店しました。このほか、ミヤマの寺子屋への支援や女性のためのU2Uの学校など教育や食の振興に力を入れています。

講演に先立ち、水田理事長は挨拶で「安倍先生は総理を支えてご活躍されているだけでなく、女性として様々なことを積極的にされています。これからの若い人に向けて、地域の人に向けて、そして何より女たちに向けて、お話をいただけるとうけたまわっています。心から御礼を申し上げたい」と述べました。

安倍氏は「色々な才能を持って輝いている女性を見ると羨ましいと思ったこともありましたが、今は、人はそれぞれ自分に与えられた使命があると考えようになりました。私の役割は人を繋げていくこと。人生にとって大切なことは『ご縁』と講演を切り出しました。「第2の人生のスタート」として、50歳で結婚25年目の2012年に開店した「UZU」に触れ、店名は、天照大神（あまてらすおおみかみ）を天の岩屋戸（いわど）から誘い出した天鈿女命（あまのうずめのみこと）に由来すると紹介。「女性たちが殻を破って伸び伸びと女性の素晴らしさを生かして社会で活動していくことが、本当の意味の天の岩屋戸開きになるのではないかと思います」

す」と述べました。また「今までにあるものだけを受け継いでいてはダメな時代。今までにない感性、感覚を取り入れて、色々なものが混ざり合うことによって大きな渦になり、そこから新しい社会が生まれるのでは」とも語りました。

2度目の総理夫人については「権力の中枢には届かない声がいっぱいあることが分かりました。『家庭内野党』と言われることもあります。主人は日本国民みんなの総理大臣。違う考え方の人たちの意見も主人に届けたいと思っています」と強調。最後に東日本大震災の復興事業で大規模な防潮堤の建設が進むことに疑問を呈し、「縦割り（行政）の弊害を変えていけるのは、女性の力ではないか。女性の活躍といっても男性に取って代わるのではなく、女性は女性で出来ることがたくさんあると思います」と結びました。

質疑応答では「時間を有意義に使う方法は」などの学生の質問に、ユーモアも交えてお答えになり、会場は和やかな雰囲気になりました。

学術交流活動

学校法人城西大学創立50周年記念

城西国際大学と東西大学の共同による

日韓合作映画の試写会を開催

日時…2016年11月1日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学術交流活動

2016年11月1日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して

製作した城西国際大学（千葉県東金市）と韓国釜山市の東西大学との日韓合作映画『コッ



8月の撮影風景

チばあちゃん』の試写会を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開きました。試写会には城西大学の張済国総長もお見えになり、城西国際大学メディア学部の教職員や学生ら約160人が鑑賞して、映画の完成を祝いました。

学術交流協定を結ぶ両大学による映画製作は2013年、城西国際大学の開学20周年を記念して製作した『冬の火花』に続き2回目となりました。今回の『コッチばあちゃん』は、1930年代に韓国・済州島から千葉県鴨川市にやって来た海女と、その血を受け継いだ日本の女子大学生と釜山からの留学生との出会いを中心に、100年にわたる家族のつながりを描いています。映画製作の準備は2015年の10月から始まりました。学生たちは、20世紀からの約100年の日韓の近代史を学び、何本もの参



歓迎をうけ、来学した張済国総長

考作品を研究。今年4月から、東西大学とサテライト会議を行いながら物語を検討し、キャストイングも行いました。監督を担当する城西国際大学4年生の中川冬馬さんのシナリオが完成、主演の女子大学生には3年生の井上佳奈さんが、そして留学生役には城西大学のキム・ホドンさんが決定。主演のコッチばあちゃんには、『雲霧仁左衛門』（1978年・五社英雄監督）でブルーリボン助演女優賞を受賞した宮下順子さんが決まりました。

韓国からは9名の学生が参加、一行は8月2日に来日し、撮影は当日から12日まで、東京都内と鴨川市周辺で行われました。学生たちは初対面ながら、すぐに打ち解け、真夏の暑い鴨川で濃密な時間を過ごしました。

学術交流活動

日本で学ぶ留学生を対象にした

詩歌賞「帰路賞」の授賞式を

東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催

日時…2017年1月27日

場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学は2017年1月27日、日本で学ぶ留学生を対象にした詩歌賞「帰路賞」の授賞式を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開きました。本学は一昨年12月、創立50周年を記念して国際現代詩センターを設立。帰路賞は、同センターの取り組みの一環として創設しました。思潮社の協賛、毎日新聞社

とジャパンタイムズ社の後援をいただきました。賞の名称は、詩人でもある水田宗子・同センター所長の詩集「帰路」にちなみしました。日本で学ぶ外国人留学生（大学生・高校生・年齢不問）が対象で、昨年7月から11月まで募集期間中、多数の応募がありました。

試写会に先立ち、水田理事長が「張総長にはお忙しい中、時間を割いていただき、



試写会の様子

私たちと一緒に映画を見る機会をつくってくださいました。どうか皆さんもこの映画をサポートしていただき、多くの方に観ていただけるようにしていただきたいと思います」と挨拶。鴨川市の長谷川孝夫市長の代理として駆け付けた黒野雅典・教育委員会生涯教育課長も「鴨川を舞台にしていた

約44分の試写会後、張総長は「本日に学生の皆さんがつくった映画なのかと思うほど、脚本、演者含めて全てが非常に良かった。日韓合作ということで、お互いの文化や歴史、習慣、考え方を勉強することができたと思う。グローバル時代では、お互いの文化を融合した文化でないと長持ちしないと思う。城西大学と城西国際大学と東西大学とは兄弟関係の大学。今後も色々なことをしていきたい」と述べました。



代表挨拶の後、朗読するカンバーナさん

国際会議場で行われた授賞式で、水田所長は「皆さま、これからも詩を書き続け、さらに私どもを驚嘆させ、うならせる作品を書いていただきたい。この賞によって日本の現代詩に一つの新たな方向が出てくることを期待します」と挨拶。選考委員を務めた詩人の高橋睦郎、平田俊子、野村喜和夫の3氏が講評。高橋氏は「本当に素晴らしい作品がたくさんあり、読ませていただいて刺激を受けました」と述べました。奨励賞5名、佳作7名に賞状などが授与され、作品「シネポエム」で奨励賞に輝いた早稲田大学文化構想学部のアンドリュー・カンバーナさん（カナダ）が受賞者を代表して「国の間の壁が作られている時代にも、新たな詩的な道が切り開かれています。私たちは詩の道を歩み続けて精進していくつもりです」と受賞の喜びを語りました。その後、出席した受賞者による詩の朗読が行われました。



水田所長と佳作受賞者



水田所長と奨励賞受賞者

講演会・シンポジウム

第2回チカダ賞記念国際シンポジウムを開催

日時：2016年11月18日

場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

講演会
シンポジウム

アンドリュース・カンバーナさん以外の受賞者と作品、所属、国籍は以下の通り。(敬称略)

【奨励賞】ヨナス・エンゲスヴィーク
「クラインの壺」城西国際大学人文科学研究科(ノルウェー)▽トルバラ・アデリナ「百万本のバラの街」城西国際大学メディア学部(ウクライナ)▽青竹(本名・羅麗傑)「水」城西国際大学人文科学研究科(中国)▽肖博倫「雪があさつてに降るとのこと」城西大学現代政策学部(中国)

【佳作】ネーメト・ヴィヴィエン「幽霊」城西大学経営学部(ハンガリー)▽陳璇「巨人の足跡」北海道大学文学研究科(中国)▽バンズィ・アニタ「星空」城西国際大学メディア学部(ハンガリー)▽黄曉双「曼珠沙華」東京大学総合文化研究科(中国)▽劉沐陽「空へ落ちる」城西国際大学人文科学研究科(中国)▽屠沖「カブリッチオ」東京ワイルド日本語学校(中国)▽陳璐「風」東京外国語大学(中国)

順)。

●ラッシュ・ヴァリエ(Lars Vargo)氏＝

前駐日スウェーデン大使・俳人

●北島(Bei Dao)氏＝

中国・第7回受賞者・詩人

●谷川俊太郎氏＝詩人

●文貞姫(Moon Chung-hee)氏＝

韓国・第5回受賞者・詩人

●高橋陸郎氏＝詩人

●イー・ニー氏(Y.Ni)氏＝

ベトナム・第8回受賞者・詩人

●水田宗子氏＝

第6回チカダ賞受賞者・詩人

●吉増剛造氏＝詩人

金子氏と楊牧(Yang Mu)氏(台湾・第9回受賞者・詩人)からは、ビデオメッセージをいただき、上映が行われました。また、各セッションのモデレーターは、本学の国際現代詩センターの田原(Tian Yuan)副センター長、城西国際大学国際文学部のジョーダン・スミス(Jordan Smith)准教授、ヴァリエ氏が務めました。

午前の冒頭、水田氏は開会挨拶で「チカダ賞が国際的な賞になっていることをうれしく思います。本日は色々なことを深く考えるきっかけにしたいと思います」と述べました。

来賓のマグヌス・ローバック(Magnus Rohrch)駐日スウェーデン大使が「歴代受賞者を迎えてシンポジウムを開催していただき感謝いたします。現代において詩は重要で、スマートフォン時代の我が国の内なる声を聴くことが必要だ」と挨拶。チカダ賞会長を務めるヴァリエ氏がチカダ賞創設の経緯を紹介し、「マーティンソンは生命に対する希望を蟬で表現したのではないか。実りある興味深いシンポジウムになることをお祈ります」と述べました。



挨拶するローバック大使

「チカダ賞へのメッセージ」と称したビデオメッセージの上映で金子氏は「チカダ賞は、まさにアニメズム。短詩型文学の担い出しをチカダ賞がやってみる手もある。それで日本人でノーベル賞をもらえるぐらいの人が出てくると面白い」と語りました。

その後、北氏と谷川氏による「生命の尊厳を表現すること」と「テーマにした対談と朗読に移り、谷川氏は「ビデオメッセージで金子さんが言っていた、全てのものに神が宿っているというアニメズムは、人間を超えた命に関する思想。日本のアニメズムの伝統をもう一回振り返ってもいいのではないか」と指摘。北氏は「私の心はずっと漂泊しているが、色々な詩人に出会って世界が広がった。一匹の鳥のように世界の辺境が見える所に来ている」と述べました。

2016年11月18日、学校法人城西大学(水田宗子理事長)は「第2回チカダ賞記念国際シンポジウム」を東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。スウェーデン政府が生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈呈しているチカダ賞にちなんでシンポジウムで、2014年6月7日の第1回に続く開催となりました。本学の国際学術文化振興センターが主催。日本スウェーデン協会と思潮社の共催、駐日スウェーデン大使館の協力をいただきました。また、紀伊國屋書店株式会社ユアテック、ジャパンタイムズ社の後援をいただきました。海外を含めた歴代受賞者をはじめ、日本の著名な詩人の方々が登壇、「生命の尊厳を表現すること」と「テーマに論議を深めました。興味深い各セッ

ションの議論と朗読に詩人や市民の方々、留学生を含む学生、教職員ら約160人が聴き入りました。

チカダ賞は、スウェーデンの詩人でノーベル文学賞受賞者のハリー・マーティンソン(Harry Martinson)の生誕100周年を記念して2004年に設立されました。賞の名前は、1953年に出版されたマーティンソンの詩集「チカダ(蟬の意)」に由来します。この詩集制作には日本への原爆投下と第二次世界大戦後の水素爆弾開発が重要な影響を与えました。第1回受賞者は詩人・評論家の宗左近氏、第2回受賞者は俳人の金子兜太氏、詩人でもある水田宗子氏は2013年に第6回受賞者となりました。

今回の登壇者は、以下の方々でした(登壇



朗読する谷川氏



朗読する北氏



朗読するイー氏



『詩と現実』のセッションの様子

前文化庁長官で本学の高等人文文学研究所の青柳正規特任所長による特別講演会「地域と文化」が2016年11月22日、城西大学（埼玉県坂戸市）の坂戸キャンパス清光ホールで、また11月29日には、城西国際大学（千葉県東金市）の東金キャンパス水田記念ホールで開かれました。青柳氏は6月15日、清光ホールで水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズとして「自然・人間そして科学技術」のタイトルで講演していただきました。テーマを替えた今回の特別講演を日本人学生や留学生、教職員が熱心に聴講しました。

青柳所長はギリシャ・ローマ考古学の第一人者。東京大学文学部長、同副学長を経て国立西洋美術館館長、文化庁長官を歴任されました。現在、東京大学名誉教授、日本学士院会員。2006年紫綬褒章。2011年NHK放送文化賞受賞など受賞歴多数。「エウローパの舟の家」「古代都市ローマ」「文化立

講演会
シンポジウム

**前文化庁長官・青柳正規特任所長による特別講演会
「地域と文化」を坂戸キャンパスの清光ホール、
東金キャンパスの水田記念ホールにて開催**

日時…2016年11月22日、11月29日
場所…城西大学坂戸キャンパス、城西国際大学千葉東金キャンパス

午後は、文氏と高橋氏による対談と朗読「ジェンダー」といのちの尊厳」に加え、文氏と水田氏、北氏、イー氏による座談会「詩と現実」が開かれました。高橋氏が「本来、詩歌は女性のものだと思っている」と語ったのに対し、文氏も「全ての詩人は根本的に女性である。男性詩人も女性性によるもの」と応えました。また詩と現実について、水田氏は「現実に深く傷ついた人は、その傷が深ければ深いほどトラウマと長く向き合うのではな

いか」と述べ、イー氏は詩とフィクションの関係について「成功する詩は、読者がどう感じるかであり、嘘か真実かの二者択一ではないと思う」と語りました。議論はボブ・ディラン氏のノーベル文学賞受賞にも及び、文氏が「戸惑った」と語ったのに対し、水田氏は「我が意を得たりと感じた」、イー氏も「（選考は）良い判断だった」と述べました。

最後に吉増氏とイー氏、ヴァリエ氏、スミス氏、水田氏による朗読がありました。

城西大学の講演の最後に、青柳所長は2020年の東京オリンピックに向けて文化庁が、日本の津々浦々の祭りや踊り、演劇などを集積するポータルサイト作りを計画していることを紹介、「オリンピックは文化の祭典でもある。2020年の後には、その集積が文化的生活するためのレガシー、遺産になる。ぜひ若い皆さん一人ひとりが、2020年の文化オリンピックアード、文化を盛り上げるオリンピックにも参加してほしい」と呼びかけました。

また、城西国際大学では「みなさん一人ひとりが自分の個性を一番発揮できる仕事をする」ことが、日本を活性化することにつながる」と語りました。



講演する青柳正規所長

トナム戦争にも触れ、戦争において弱者が差別されてきたことに対する思いが今の自分の研究にもつながっているのかもしれないと話されました。

質疑応答では、ヨーロッパからの留学生からの、自分の先祖は字の読み書きができなかったらしく何の記録も残されておらず、ルーツがわからないままであるが、どうしたら自分の先祖を探し出すことができるのかという質問に対して、シャロウ教授は教会に行けば昔からの記録が残っているの、教会に行って調べるのも一つの方法ではないかと答えられました。グローバル・カフェ終了後にも大勢の学生がシャロウ教授を取り囲み、質問をしている光景が見られました。



グローバルCaféの様子

「グローバル・カフェ」を開催



日時…2016年10月11日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年10月11日、学校法人城西大学は東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際会議場で、ラトガース大学のポール・シャロウ教授を招いて、「グローバル・カフェ」を開催しました。会場には、学生や教職員ら約80人が集い、シャロウ教授のお話に耳を傾けました。

シャロウ教授は、日本文学がご専門で、現在は平安時代の宮廷の漢文日記の研究をなさっています。ラトガース大学では原爆文学、江戸時代の武士の伝統、東アジアに

ついて講義をされています。また、城西国際大学の客員教授でもあり、グローバル・カレッジの授業の一環として江戸時代の武士の文化についての講義を担当しておられます。

今回は「My Global Life」と題して、ドイツとノルウェーからアメリカに渡ってこられたご先祖の話に始まり、ヨーロッパでのご自分のルーツ探しの旅での体験談を写真を使いながらお話しされました。シャロウ教授は、第二次世界大戦時のドイツ、ノルウェー、ベ

学校法人城西大学一行が台湾姉妹校を訪問



日時…2016年11月6～8日
場所…淡江大学、台湾城市科技大学、台湾

淡江大学創立66周年記念式典に出席

2016年11月6日、本学姉妹校である台湾淡江大学創立66周年の記念式典ならびに学長会議に水田宗子理事長が招待され、訪問いたしました。

式典に先立ち、フィールドにおいて、学生による課外活動のパフォーマンスと人文字が披露され、演武も華やかでした。

引き続き、紹興記念体育館において、記念式典が開催され、水田理事長は主賓として、

挨拶を行いました。その折、これまでの交流に感謝を込め、学長である張家宜 (Chang Flora Chia) 先生のお名前をつけた新種の薔薇をプレゼントしました。花好きで知られる張先生と淡江大学のみなさんは、大変喜ばれました。同窓生、学生が多く集う中、音楽・映像を駆使しての式典で、寄付者へのお礼も盛大に行われました。その後、キャンパスツアーがあり、図書館やロボティクスセンターを見学、書に力を入れている大学らしく、ロボットが書を描くパフォーマンスもありました。



淡江大学フィールド 66周年記念大会オープニングショーにて

午後には、学長会議が開催され、「Internationalization of Higher Education: New Initiatives and Strategies」というテーマで、発表と討議が行われました。フロリダ工科大学、南京航空・航天大学、東京外国語大学、マカオ大学、韓国忠南大学校、麗澤大学などがプレゼンテーションを実施、各国の事情も鑑みたグローバル教育、今後の戦略について発表がなされました。

11月7日には、台北から、車で約1時間15分ほど離れた淡江大学蘭陽キャンパスを見学。蘭陽キャンパス主任 (Provost) である林 志鴻 (Lin Jyh-Hong) 先生ならびに College of Global Development の劉 艾華 (Liou Ay-Hwa Andy) 学部長から、All English の全寮制学部概要と学生たちの留学システム等、またこの蘭陽キャンパスがエコキャンパスとして機能していることにつ



淡江大学蘭陽キャンパス見学

いて説明を受けました。ここに所属する学生は、必ず1年間は海外の大学に留学することが義務づけられており、台湾において、大変就職もよいとのことでした。

台湾城市科技大学 表敬訪問

その後、台北市内に戻り、台北城市科技大学の鄭逢時 (Zheng Feng-Shi) 理事長、連信仲 (Lien Hsin-Chung) 学長を表敬訪問しました。本学との長年の交流を取り持っていただいている民生学部長 (Dean of Human Ecology) の黄招憲 (Huang Jan-Hsien) 先生に配慮いただき、大学執行部ならびに国際交流担当の蘆泓汶 (Lu Hung-Wen) 先生も同席し、今後の両学の交流について、さらに交流を深めるため、日本語コースから本学へ

の留学を増やす、教員の交流、インターンシップについての協力など、よい話し合いが持てました。また、本学から台北城市科技大学で日本語を教えている先生にも会うことができました。

その後、連学長のご案内で、台北城市科技大学キャンパスを見学。実務に力を置いた施設、学生たちの就職の良さなどについて、また、民生学部の美容、アロマセラピー、観光、スポーツ健康、音楽演芸のクラスについて実際の教室を視察しながら説明を受けました。

加えて、台北の一流ホテルである西華飯店や圓山飯店での観光インターンシップについても、いつでもご紹介しますとのことでした。

2016年11月8日には、第9回チカダ賞受賞者 楊牧 (Yang Mu) 氏 (台湾国立政治大学教授) と面会し、11月18日に開催されるチカダ賞記念国際シンポジウムに向け、メッセージをいただきました。

今泉記念ビルマ奨学会に埼玉グローバル賞

日時.. 2017年2月8日
場所.. 埼玉県知事公館



城西大学の「ミャンマー交流・人材育成奨励制度」のもとになった「今泉記念ビルマ奨学会」(埼玉県鶴ヶ島市)と今泉清詞会長(93)が今年度の「埼玉グローバル賞」(未来への投資「分野」)に選ばれ、2月8日に埼玉県知事公館で表彰式が行われました。

今泉会長は第二次世界大戦中、ビルマ(現ミャンマー)で従軍。生きて帰れたのは食べものなどを分け与えて助けてくれた当地

の人たちのおかげとして、私費を投じてミャンマーからの留学生に対する支援を続けています。一人当たり年額数十万円の奨学金を19年間で178人に支給。支援を受けた留学生のうち26人が博士号を取得し、母国や世界各地で活躍。現在も同国で図書館建設、寺子屋での英語教育支援などの活動が続いています。



鄭逢時 理事長 (右から4番目)、連信仲 学長 (左から4番目)

本学は昨年7月、同会からの多額の寄付を受けて制度を立ち上げ、新年度からミャンマーからの留学生に奨学金を授与することになっています。

埼玉グローバル賞は、世界を意識した活動や地域の国際化に向けた活動を行う埼玉県にゆかりのある個人または団体が対象で、今年度は今泉記念ビルマ奨学会のほか、1団体2個人が上田清司知事から表彰を受けました。

今泉会長は「受けたご恩の万分の一のささやかなご恩返し活動が大きく評価され、大変恐縮しております。今後も日本とミャンマーとの友好親善に一層努力して、この榮譽に報いたいと思います」と語っています。



表彰式で上田知事（右から3人目）、今泉会長（左から3人目）と関係者

V4（ヴィシエグラード4）+日本

移民問題セミナーを開催

日時…2017年2月22日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2017年2月22日、学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールにおいて「V4（ヴィシエグラード4）+日本」セミナーが、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。セミナーには、外務省をはじめ、16カ国を超える駐日各国大使館員、各大学の研究者、マスコミ、本学関係者、学生、有識者ら、約70名が参加しました。

同セミナーを本学が共催で行うのは今年で5回目。今回はV4議長国であるポーランド

からの提案で、「移民問題」をテーマとして実施しました。

セミナーの冒頭で、本学を代表して小野元之理事長代理の開会挨拶の後、滝沢求外務大臣政務官から日本政府を代表しての挨拶、それに続き、議長国のポーランドを代表してピョートル・ショスタック臨時代理大使が基調講演において、昨年は、V4発足25周年という歴史を刻んだ年でしたが、英国のEU離脱の影響などもあり、V4諸国も困難な局面を迎えていると述べました。



基調講演を行う滝沢求外務大臣政務官

基調講演に続いて行われた各セッションにおいては、我が国及びV4諸国から参加した研究者の発表に続き、(1)現在の移民危機の原因、(2)移民問題におけるV4の政策、(3)日本から見た移民問題について、参加者との間で活発な意見交換が行われました。

近年、ポーランド人口が英国の外国人人口の中に占める割合が高くなってきた中で、さらにBrexitが起きたことで、東欧は送り出し国として受け入れ国の政治的発展を招いているという問題の指摘。また、東・中欧では、「難民」ではなく「移民」としており、「非合法移民」の受け入れを正式に認められる立場になく、これは、日本の置かれた環境、政策と重なるところが多く、その意味でも非常に意義深いセミナーとなりました。



パネリストらによる記念撮影



基調講演を行うポーランドのショスタック臨時代理大使

※V4とは、そして本学との関係

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4カ国は、各国間の友好と協力関係及びヨーロッパ統合の進展を目的とした協力の枠組みとして「ヴィシエグラード・グループ」を形成しており、グループの総称として「ヴィシエグラード4カ国（V4）」とも呼ばれています。V4諸国と日本は、民主主義、法の支配、人権、自由及び市場経済といった普遍的価値及び原則を共有する重要なパートナーであり、安全保障、経済、科学技術、イノベーションの分野においてもますます

す協力を深めています。「V4+日本」として、外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行ってきました。

また、本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。現在、43名のV4からの学生が城西大学、城西国際大学で学んでいます。また、ハンガリー語、ポーランド語、チェコ語も教えています。



キャンパス機能強化

水田三喜男記念館・新薬学部棟竣工式を挙る

日時…2017年3月28日
場所…城西大学坂戸キャンパス

キャンパス機能強化

学校法人城西大学が創立50周年記念事業として城西大学坂戸キャンパス（埼玉県坂戸市）で建設を進めてきた水田三喜男記念館と新薬学部棟が完成。2017年3月28日、竣工式を執り行いました。竣工式には近隣自治体の首長や議長、設計監理、施工会社関係者、地域の方々、教職員、学生ら約400人が参加、完成を祝いました。

創立者の名前を冠した水田三喜男記念館は、坂戸キャンパスのシンボルである「城西の丘」の麓に位置し、優雅なアーチを描く屋

根は丘の地形をなぞるような形となつています。地上2階建て約1800㎡。講堂、多目的スペース、ファウンダーズルームなどを備え、ファウンダーズルームでは日本の戦後史とともに歩んできた創立者・水田三喜男の生涯と大学の歴史を、勲一等旭日大綬章や各国からの勲章、執務机、大礼服など約100点のゆかりの品々や写真、映像で再現しています。

また、新薬学部棟は地上9階地下1階の約1万2000㎡。キャンパス南東端に位置し、キャンパスの目印、ゲートウェイと

しても機能します。教室や研究室、教職員のオフィスなどを備え、研究室フロアでは、研究室間の壁を設けず、学生・教員の交流を促進する斬新なつくりとなっています。

この日は神事の後、水田三喜男記念館の前でテープカットが行われました。施主である小野元之理事長代理は挨拶で「城西大学の新しいスタートを切るのにふさわしい素晴らしい天気の下、水田三喜男記念館と新しい城西大学のシンボルとなるような薬学部棟の竣工を迎えることが出来ました。この記念館で創立者の業績を偲び、その功績を称えてまいりたい」と述べました。小野理事長代理、白幡晶学長、城西国際大学の柳澤伯夫学長、石川清坂戸市長、水田宗子理事長らがテープカットした後、それぞれの建物の内覧に移りました。



テープカットする小野理事長代理や白幡学長ら



新薬学部棟実習室を内覧する参加者



ファウンダーズルームを内覧する参加者

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線 銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



直会では、小野理事長代理に続いて水田理事が挨拶で「50周年を終え、これからまた新しい一歩になります。これからは城西の発展を見守っていただきたいと思います。皆さまのおかげで、素晴らしいものを作っていました。創立者もさぞ喜んでいらっしゃると思います」と述べました。引き続き、白幡学長が「(この二つの)美しい建物をつかって学生主体の教育を実現すること、地域社会に貢献することに全学挙げて取り組んでいく所存です」と述べて、乾杯の音頭を取りました。

この後、設計監理者である建築家の阿部仁史・阿部仁史アトリエ代表取締役と山本茂義・久米設計取締役常務執行役員、施工者の浦進悟・大林組専務執行役員東京本店長から挨拶をいただきました。阿部氏は「新薬学部棟は今後、キャンパスが広がっていくうえでの一つのデザインの道しるべのようなものになればと思っています」と語り、「ローカルとグローバルをどう結んでいくかが、どの大学にとっても大きな課題。記念館は大学と地域、国際的な活動を繋ぐプラットフォームとして大きく役立つだろうと期待しています」と結びました。また、多くの来賓の方々の中から、藤縄善朗・鶴ヶ島市長、石井寛・坂戸市議会議長、古川浩一・千葉県東金市副市長からお祝いの言葉をいただきました。

最後に3月をもって退任した柳澤学長が「50周年記念事業を飛躍台にして、これからの50年、教職員の皆さま、本日ご参列の皆さま方のご協力、ご指導を心よりお願いしたい」と手締め挨拶をされました。

一方、竣工式に合わせて、水田美術館では、長く城西大学の専務理事を務め創立者を支えてこられた洋画家の橋本博英氏(1933〜2000)の展覧会を開催しています。確かなデザイン力を基に色彩の対比調和と秩序立てた構図で、対象を画面の中に再構築させる絵画表現を開拓し続けました。今回の展覧会では、学校法人が所蔵・管理する作品と個人所蔵の作品合わせて36点を前期(5月2日まで)と後期(5月9日〜6月17日)に分けて紹介します。

学校法人 城西大学

 城西大学 / 城西短期大学  城西国際大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26
TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299